海英軍派が 群勢 目の隊 有力 萬之於是 た 海 2 海 は め 多 死し てド 細さ の海流 V 軍 萬一 5 軍 英さいを英語などの正確なない。 12 獨 ノレ は ア 闘き ホ 海か 戰 商智能 F 側 を 噸だ であ 現 ク IJ 佝ほ不明であるが 一千噸 1 發売 演先 軍公 ツ でド イ 有 K 省等 フ る 最 を 0 ス 0 は 新比戰 撃なが、沈え 艦が も現場 ניי たことは ツ 損害を受け イツ 且 K K 的 ラ す は F 本日 F 隊に 四 序幕らし 兩勢 號が 船が 艦なたいだけ ドイ る最 つし 日 ン 他の主力艦をも 號が 司し カン て ば 發は 利 A 猛 13 英巡 加益 海恋表。 推った。 P 共な ス 令な 回るの 側語官是退在列 强 戦だし 0 沖 は別に 7 十五吋砲八十五吋砲八十五吋砲八十五吋では、二隻の 7 艦 海流 去ます ルク號 者や される英巡洋戦 發表が は られたもの な火 洋 攻撃は だ たさ 巨獣間に と言い 道が るを 最初 戰 0 損傷を蒙 工 破壞 ス 模樣 rc 三萬 中央大 軍艦で 餘上 0 は テ 門を裝備 のことである V K 儀書 カン る で 机 行 ル 言 の 辟きをき 於物 ٦ 五 で な 3 7 0 らぬ は るきょ ける は 西は 艦か 同さ 大海 ク 打 あ 洋 軸だ 提べなく あ され 12 L 3 F のに 破は 第に る 闘な ち に於 3 " 3 壞品 が U 獨 獨 號 0 互發 VU IT

り如は近が議を出て 同言語で論えな 2 な た便な會な た 下もの かい T 2 T わ 案を學ざる 思なか る ぶんどうの 加かとか 會なな 検だ る T 加办 > 對た大だへ 州らし は な 州岩 外台 園えれ 8 n 6 か 17 置** 定にの は 議 外意 閉には 持* 失 読な 國《規制 て な を 策 7 をは 2 ね V 力 0 1 0 語で定に目を彼るが 國之下中會認 縣にば ちよが る た 會認 要すイ n た T S 標う地を提に語で院にを去すがした出き事がの前にる 7 講か ع 會意 間常 な は 學がに せ る 據北 まてこん 校から 6 ぜ 違な了まれ る 今公 2 2 K 0 T 於為 對た 今だが 3 等項質 2 其モス る 校的一 六 82 は お K 2 CA 0 た 三た 4 來く後でに 日本岸党 そ を 2 州岩 け 取り議まし 0 た 此。 は K 礼 0 8 6 る日に 取了教育教育 そ 今元 締制員2て 再约打? 見多 た る 8 な 0 0 5 締修科も育ら 別らう で 適な思な問え 8 3 す 法はに 加加度 びち 0 のい捨て當ちつ *本定勿を案を依よ突き間*州とは ての書は局意 に閉に べ E

5 枝レ要なる 風ま師し勿まに 優。1 は " 萬まを 唯在 を 立たち 4 何かの 1 た 葉ます E 素が潑労市しと 生的 に晴は川な 秀ら 勿智 K ス -K ~ す 大たけ 映な論な時は刺り民ない 着っ岡和 7 飛が現なに で る 0 カン n 7. 書いそ は る 行がに あ グ 切る 外系 質な 8 5 が \$ K 1 る。 問えな À 米ごの 弱發歸 場場同等 がれ 示し男だ ことも 8 化、 た な T 同時に 映ぜら 題だい 國を途を行いが 有らは 女を映た時かが A 2 朝がに な の チ 於為 する P. だ 成在 書の此。 が 旗まで を 0 た 0 0 歡えの 末き 决当 1 で あ 寫りけ 2 で 1 4 る あ 6 途节日 T 端たそ 本語學 技ギツ グ 氣書 眞にる 見ず迎ば間愛 思想 ほ め あ で 0 0 を光ご 敬に 術質の n る あ 同的 で が E た 0 K T て 6 0 實らル 等。 禮な校常 外影 あ 思認 n 的 あ 狂 k. な た 2 ル -國之教力 庭に 如い相談た さイ 何を況等リ \$ n 6 N 2